

社員育成への取り組み

2005年4月ビジネススクールの開校から三年間の講座内容

平成17年度 公開講座 合計22講座 受講人数 約837名		平成18年度 公開講座 合計18講座 受講人数 約561名		平成19年度 アントレプレナーシップコース 合計15講座 受講人数 延べ400名	
群馬大学 社会情報学部 田村 勇志 教授	・ネットワーク組織論(1) (地盤情報とその連結)	九紅マシナリー(株) 元社長 森田 茂 様	・自己意識改革と自己実現	経済ジャーナリスト 財部誠一様	講者の思考 いい仕事をしていい人生を送るために
	・ネットワーク組織論(2) (変容する社会と企業)		・会社を活性化させるためには 何が必要か?	カゴメ(株) ユニットディレクター 杉山重久雄様	植物性乳酸菌飲料ラブレーについて
	・ネットワーク組織論(総括編)	人材形成研究所 所長 水上 久忠 様	・人材形成戦略	群馬大学 共同研究 イノベーション センター 教授 須賀勝樹	イノベーション経営改革を
三菱商事(株) 元産業機械本部長 佐野 邦八郎 様	・経験からのメッセージ 製造業の重要性(1)	群馬大学社会 情報学部 教授 田村 勇志 様	・ナレッジマネージメント入門(1) (知識創造企業を目指す経営学)		ものづくり今・未来
	・経験からのメッセージ 製造業の重要性(2)		・ナレッジマネージメント入門(2) (知識創造企業を目指す経営学)		プロジェクト活動でイノベーションを
	・経験からのメッセージ 製造業の重要性(3)	毎日新聞社 論説委員 岸井 雄作 様	・中小企業の生きる道、活動への期待 (大企業との役割分担)	法政大学 経営学部 教授 松島茂樹	企業家のビジョン 瀬沼技評、昭和製作所のケース
法政大学 経営学部 松島 茂 教授	・競争力の源泉(1) 事業システムの構想力	三菱商事(株) 元産業機械本部長 佐野 邦八郎 様	・米国飲料業界に学ぶ (1年間留学経験紹介)		組織の中のアントレプレナーシップ
	・競争力の源泉(2) なぜトヨタはフォードに勝ったのか	法政大学 経営学部教授 松島 茂 様	・課題の事例研究(1) (ハルナビ(ハレッジグループの ケース・スタディー))	サッポロ飲料(株) 元代表取締役社長 岡田明樹	これから会社はどうあるべきか
	・競争力の源泉(3) 経営資源		・課題の事例研究(2) (ハルナビ(ハレッジグループの ケース・スタディー))	群馬大学 社会情報学部 教授 田村勇志様	日常業務における「場」のセッティング と知識伝承について
	・競争力の源泉(4) 企業の成長と アントレプレナーシップ	群馬県農業支援機構 専務理事 長谷川 幸彦 様	・経営の創造性を高める ～元気企業に学ぶ経営革新の暗黙点～	ヨークマート(株) 元代表取締役社長 杉井一郎様	小売業からみたお客様
高崎健康福祉大学 健康福祉学部 江口 文隆 教授	・産官学提携の重要性とその実践		・ケーススタディ ～自社の強み・弱み分析からの 経営革新の方向付け～	中央総合学院グループ 学院長 後藤 新 様	人づくり・組織づくり
	・きのこに学ぶ変化する社会への対応	群馬大学 地域共同研究センター 須賀 喜 教授	・技術者が修得すべき技術開発経営		グループ経営とアライアンス戦略
サッポロ飲料(株) 社長 岡 俊明 様	・市場環境変化とマーケティング		・企業とグローバル化	ハルナグループ 代表CEO 青木清志	強い企業の実現に向って +αが成功の基
群馬大学 地域共同研究センター 須賀 喜 教授	・物語り技術の伝統を持とう	ナッポロビール飲料(株) 前社長 岡 俊明 様	・企業免査に向け今求められること		ハルナグループの将来構想(2) 運営者の時代
	・環境にやさしいエネルギー	高崎経済大学 経営学部教授 岸田 寿弥 様	・作業者の作業意欲と動機付け		
高崎経済大学 経営学部 岸田 寿弥 教授	・企業のリスクマネジメントと 安全文化・安全風土		・参加型人間工学と改善		
毎日新聞社 経済部編集委員 岸井 雄作 様	・町工場を教材して ～ものづくりの現場で見た課題	高崎健康福祉大学 健康福祉学部 教授 江口 文隆 様	・産学連携のケース・スタディー		
群馬県農業支援機構 専務理事 長谷川 幸彦 様	・群馬県の産業構造の特徴と課題 ～これまでとこれから～	産業ジャーナリスト 財部 誠一様	ハルナグループ代表 CEO青木との会談～経営論～		
人材形成研究所 水上 久忠 様	・管理者の人材形成				
カゴメ(株) 横田 哲也 部長 様 末田 司 副部長 様	・野菜と健康				
(株)ハルナビ(ハレッジ) 研究所 監査役 小林欣司	・創業者から学んだもの				
ハルナビ(ハレッジ)(株) 代表取締役社長 青木 清志	・新しい時代への製造業構想				



Haruna Group ビジネススクール ~講座内容~

平成20年度「製造者養成ハルナビジネススクール」

「企業価値を創造する人材育成」を目的に設立された製造者養成ビジネススクールも3年を経過いたしました。この3年間の経験を踏まえ、又、今年1月よりタニガワビバレッジ株式会社もハルナグループの仲間に加わり、ますますグループ経営の重要性も増したことから、平成20年度のビジネススクールを次のように運営していきます。青木清志ハルナグループ代表取締役会長が言及されているグループ経営のコンセプト『これまでのグループ集合体に近い実態から、連結経営体制による「ハルナビジョン」の基で、「コーポレートブランド」価値の最大化を目指すには、戦略性をもつ組織構造に変革する必要がある』を実現するために、本年は特にエグゼクティブコースを設け、充実化を図ります。また、ミドルマネージメントコース、プライマリーコース、タニガワビバレッジコースの3コースで、グループ社員全員のレベルアップを目指します。

1. エグゼクティブコース 特別講座

受講対象者：ハルナグループ各企業のトップ経営陣（指名）

研修時間：年6回、原則として隔月1回、月曜日 18:00～19:40 研修期間は、2～3年での完結を目指す

講座内容：青木会長を座長としたゼミナル形式 その他に、ビジネススクールの客員教授1人も講師としての参加を仰ぐ

スケジュール・カリキュラム・講師：

4月 7日(月) 青木会長『グループ経営とアライアンス戦略』
6月16日(月) 青木会長
『グループ経営のための戦略①』
10月 6日(月) 青木会長、岡俊明 元サッポロ飲料株社長
『グループ経営のための戦略②』

12月15日(月) 青木会長、須齋嵩 群馬大教授
『グループ経営のための戦略③』
2月 2日(月) 青木会長、財部誠一 経済ジャーナリスト
『グループ経営のための戦略④』
3月16日(月) 青木会長『グループ経営のための戦略⑤』

2. エグゼクティブコース 通常講座

受講対象者：ハルナグループ企業の幹部（自由参加）

研修時間 毎月第一月曜日、第三月曜日 18:00～19:40

講座内容 ビジネススクール教授陣による講座（ゼミ形式、講義方式）2年～3年間のスパンでの終了を目指す、
体系的に、ファイナンシャルマネージメント、マーケティング論、組織行動学、経営総論を学ぶ

スケジュールとカリキュラム：

4月21日(月) キリンビールラガーの生ビール化 松島 茂 東京理科大学大学院教授
5月 7日(水) 投資経済分析 寺石 雅英 群馬大学教授
5月19日(月) 企業価値評価 寺石 雅英 群馬大学教授
6月 2日(月) 飲料・食品業界に於ける市場変化と消費動向
岡 俊明 サッポロ飲料株元社長
7月 7日(月) 技術開発と技術経営 須齋 嵩 群馬大学教授
7月22日(月) 財務分析① 小出 信介 ハルナビバレッジ株社長
8月 4日(月) 人づくり組織づくりⅠ 後藤 新 中央総合学院グループ学院長
8月18日(月) 財務分析② 小出 信介 ハルナビバレッジ株社長
9月 1日(月) コストダウン(コスト開発力) 须齋嵩 群馬大学教授
9月16日(月) 米国飲料業界に学ぶ① 佐野 昭八郎 三菱商事株元産業機械本部長
10月20日(月) アサヒビール長期低迷企業の再生 松島 茂 東京理科大学大学院教授
11月 4日(火) 企業の成功例・失敗例Ⅰ 杉 伸一郎 ヨークマート株元社長
11月17日(月) 経営情報システム論(最新システムの事例分析)Ⅰ
田村 泰彦 群馬大学教授
12月 1日(月) 経営情報システム論(最新システムの事例分析)Ⅱ
田村 泰彦 群馬大学教
1月 7日(水) 企業の成功例・失敗例Ⅱ 杉 伸一郎 ヨークマート株元社長
1月19日(月) 人づくり組織づくりⅡ 後藤 新 中央総合学院グループ学院長
2月16日(月) 飲料・食品業界に於けるこれから求められる商品とのづくりの視点
岡 俊明 サッポロ飲料株元社長
3月 2日(月) 米国飲料業界に学ぶ② 佐野 昭八郎 三菱商事株元産業機械本部長



3. エグゼクティブコース ウィンタースクール

受講対象者: ハルナグループ各企業の幹部(指名)

研修時間: 11月22日(土) 9:30~18:30 一泊二日 合宿研修 11月23日(日) 6:30~10:00

研修場所: 音羽俱楽部(前橋市神沢の森)

講師&カリキュラム: 後日決定

4. ミドルマネージメントコース

受講対象者: ハルナグループ各企業(除. タニガワビバレッジ株)の部長職(STL) 課長職(TL)の全員(指名)

研修時間: 月1回とし、早番最後の日の17:30~19:00 同一講義を月に3回行う。詳細の日程は毎月決定する

スケジュールとカリキュラム:

4月 清涼飲料製造工程での重要管理項目 菅谷 経営監視評価役

5月 物の見方・考え方 跡田 潔 ハルナビバレッジ研究所元社長

6月 管理の基礎について 跡田 潔 ハルナビバレッジ研究所元社長

7月 IEの基礎 菅谷 経営監視評価役

8月 食品衛生法について 跡田 潔 ハルナビバレッジ研究所元社長

9月 管理者のコミュニケーション力の高め方 菅谷 経営監視評価役

10月 財務分析 小出代表取締役社長

11月 会社法、労働法、コンプライアンス 小林 経営監視評価役

12月 マーケティングの重要性について 青木 常務取締役

1月 生産の五要素について① 跡田 潔 ハルナビバレッジ研究所元社長

2月 清涼飲料製造用資材の基礎知識 菅谷 経営監視評価役

3月 生産の五要素について② 跡田 潔 ハルナビバレッジ研究所元社長

5. プライマリーコース

受講対象者: ハルナビバレッジ株、ハルナビバレッジ研究所のチームリーダー以下の全社員

研修時間: 月1回とし、連休明けの遅番最初の日に、一時間早出16:00~17:00 同一講義を月に3回行う。

製造本部以外は、業務の合間に、いずれかの時間で講義を受ける。毎月の日程は、

第一・第二・第三工場年間出勤カレンダーに基づいて決定する

スケジュールとカリキュラム:

4月 清涼飲料製造の基礎知識:調合～充填～包装までの流れ 三原 製造本部長

5月 同上 :微生物汚染と殺菌 古市 品質保証本部長

6月 安全衛生について 荒井 HLC統括部長

7月 製造現場での安全衛生:熱中症の危険性、予防策、発生時対処、救護法について
三原 製造本部長

8月 清涼飲料製造の基礎知識:サニテーションと衛生管理(CIPを含む)

青木 生産管理部長

9月 清涼飲料製造の基礎知識:飲料関係法令(食品衛生法、排水・廃棄物等)

古市 品質保証本部長

10月 機会保全の基本 湯浅 工務部GL

11月 電気の基礎知識 清水 製造副本部長

12月 作業改善の方法(QC7つ道具説明含む) 岩井 品質保証副本部長

1月 トラブル事例研究①(ケアレスミス防止方法含む) 小林 第一工場長

2月 同上 ②(同上) 石原 第二工場長

3月 飲料マーケットとHBグループの今後 青木 常務取締役

6. タニガワビバレッジコース

受講対象者: タニガワビバレッジ株全社員

研修時間: 交代制勤務のため、同一講義を月3回実施する日時は毎月勤務状況に応じてその都度決定する

講座内容: 近い将来、HACCP認証工場取得に向けての全員研修の必要科目

講師: 跡田 潔 株ハルナビバレッジ研究所元社長

スケジュールとカリキュラム:

5月 会議について(コミュニケーションの重要性)

11月 HACCPシステムとは何か

6月 物の見方、考え方について

12月 清涼飲料水の微生物等の制御

7月 食品衛生法について

1月 清涼飲料水の一般的衛生管理

8月 HACCP(総合衛生管理製造過程について)

2月 HACCPプラン導入の手順

9月 清涼飲料水とは 種類と分類

3月 総合衛生管理製造過程の承認申請と承認の更新

10月 食品衛生の基本的な知識

Haruna Group ビジネススクール エグゼクティブコース

次年度のカルキュラム編成のために諸先生方にお集まり頂きスクールの今後の方針を相談させて頂く[教授会]を開催しています。本年度の諸先生方は下記のとおりです。

注)2008年開講順で表記させて頂いています。



経済政策シンクタンク「ハイペイロード・ジャパン」代表 経済ジャーナリスト
財部 誠一 先生

フリーランスジャーナリストの財部誠一先生。金融、経済誌に多く寄稿され、気鋭のジャーナリストとして期待される先生です。現在はテレビ朝日系の情報番組「サンテープロジェクト」、BS日テレ「財部ビジネス研究所」、大阪・朝日放送「ムーブ」等、TVやラジオでも活躍中で、経済界の政策提言もされていらっしゃる財部先生をお迎えし、現代市場を背景に変動する経済・経営・金融等、ご教示頂きます。



東京理科大学大学院
総合科学技術経営研究科教授
松島 茂 先生

松島先生の専門は企業家活動論、中小企業論。研究テーマは、産業集積のメカニズムとダイナミクス、中小企業政策の生成と展開、経済産業省、南東アジア大洋州課長、中小企業庁計画課長、大臣官房企画室長、工業技術院審議官、中部通商産業局長を歴任された経験から日本企業のあり方、中小企業の政策を事例をあげて分かりやすくご講義頂いています。今期はケーススタディ「キリンビールラガーの生ビール化と歴史的逆転」「アサヒビールー長期低迷企業の再生」をご指導頂きます。



群馬大学
社会情報学部教授
寺石 雅英 先生

寺石先生の専門はファイナンス論、起業論、交渉論。大学では「経営学」「ファイナンス論」「ベンチャー創造の人間学」「必勝法の経済心理学」「エンタインメントの経営学」、大学院では「企業・産業分析スキル」「ビジネスプラン策定スキル」「企業再生マネジメント」「技術・知的財産マネジメント」「旅館・ホテル経営論」等の広範囲の専門の先生です。当社では今期よりご講義頂きます。「財務分析・投資・経済分析・企業価値評価・意思決定バイアス」をご指導頂きます。



元サッポロ飲料(株)
代表取締役社長
岡 俊明 先生

サッポロ飲料(株)代表取締役社長のご経験から経営者には努力だけではなく、培われた経営センスやマーケティング力が必要であるとの観点から、飲料食品業界に於ける「市場変化と消費動向、飲料食品業界に於けるこれから求められる商品とのづくり飲料食品業界に於ける売りの仕組みづくりとプロモーション戦略」をご指導頂きます。



群馬大学
社会情報学部教授
田村 泰彦 先生

群馬大学社会情報学部の教授、田村先生は「日本企業は組織的知識創造の技術・技術によって成功してきた。組織的知識創造とは新しい知識を創りだし、組織全体に広め製品やサービスあるいは新規システムに具体化する組織全体の能力のことであるそれが日本企業成功の根本的原因である。」と日本経営面から情報学と幅広い知識からご指導を頂いています。また、当社ハルナビパレッジ株式会社の監査役員で、当社取締役のご指導も頂いています。今期の田村先生のご講義は「経営情報システム論—基幹システムの事例分析ー」と事務をあげてご講義をしていただきます。



中央総合学院グループ
学院長
黒田 新 先生

群馬県の出納長のご経験もある黒田先生は、現在は群馬県内でも最大の中央総合学院グループの学院長でいらっしゃいます。ウインタースクールのご講義でも「人づくり組織づくり」と題し、組織は目的を明確にすること。全員がモチベーションを持つことは難しいことであるが、核となる人間を見出し、委ねるべきは委ね責任は自分でとるという考え方で、人を育てることが重要である。とご指導頂きました。



群馬大学
共同研究イノベーションセンター教授
(兼)研究・知的財産戦略本部副本部長
須賀 崑 先生

現在群馬大学共同研究イノベーションセンター教授でいらっしゃる須賀先生は、企業勤務時は開発から海外販売まで、事業経営責任者や中国に会社を設立し、董事長を務められ、また海外工場や販売拠点を創設・環境・エネルギー研究所の設立と同時に研究所の責任者等を歴任された経験もあり豊富な知識より、今期は技術経営論コスト開発(コスト削減)問題解決能力をご指導頂きます。



元三菱商事(株)
産業機械本部長
佐野 昭八郎 先生

三菱商事では機械グループに所属し終始機械設備の販売を担当されていらっしゃいました。ご退職後富士コカコーラ社入社され、米国コカコーラ社で研修を受けられたご経験もある佐野先生。今回のご講義はこの研修のご体験を中心に、三菱商事ニューヨーク駐在員時代、富士コカコーラ社時代のご経験、また米国飲料業界の市場もご教示頂きます。



元ヨークマート(株)
代表取締役社長
杉 伸一郎 先生

元ヨークマート(株)代表取締役社長の杉先生は、ご経験と知識を生かし、現在、食品流通研究会代表でいらっしゃいます。経営流通のプロフェッショナルである杉先生は「今、経営理念の違う小売業態が必要。利益が出ないビジネスは、意味がない。過疎地で成り立つ業態がある。それには日常にこだわること。非日常を排除すること」と教えて頂きました。今期よりご講義を頂き「企業の成功例失敗例」を示唆に富むご講義を頂きます。



元(株)ハルナビパレッジ研究所
代表取締役社長
鈴木 潔 先生

今期では、「管理の基礎について・物の見方考え方について・生産の5要素について」を担当して頂く。ハルナビパレッジ創業から社員を見ている鈴木先生から「当社社員は眞面目ではあるが、積極性に欠ける面がある。アントレプレナーを主として考えたときには、もっと視野を広げ外部との接触が必要」との見解を反映された管理・考え方をご指導頂きます。

Haruna Group ビジネススクール ウィンタースクール

当ビジネススクールではアントレプレナーシップ講座『ウィンタースクール』を実施、講師の先生方をお招きして1泊2日の合宿を行っています。

5名の講師をお招きしセミナーを開講、社会情報学・社会工学・物流、経営・財務知識等のアントレプレナーシップのご講義を1日間受け、講義後は、先生方を含め代表者、役員、幹部が全てアトランダムに設定されたグループに分けられ、ひとつのテーマ、「ハルナグループの強さと弱さ」で会食をしながら話し合いを行いました。また食事後は、先生方、役員を囲んで、相談をしたり将来の希望を、語り合う場所を設けました。翌朝はホテルの庭に集まり、エクササイズを行いました。1泊2日間の参加で、社外の先生方からの講義だけではなく、役員と会社の将来を語り合い等のふれあいの時間を作り、社員の意識改革、自己啓発につながるスクールを実施しています。

～参加者の感想～

◎合宿形式で行われた設定は通常の講座以上に「集中」して学べる環境であったと思われます。特に製造本部所属の人間はいつも制服のまま出席している等、仕事の延長気分でありがちであるが、休日の合宿で終日を勉強の時間に費やすことは、それらの雑念が介在せず学ぶ場として参加することが出来ました。

◎週末の貴重な時間をこのような講義を設定して頂き誠に嬉しいです。今回感じたことは日々の業務に追いまくられ見落としがちなポイントを多数指摘を受けたと感じます。

◎業務改善に取り組む人々の思い・信念には感銘を受けました。何かをやり続ける継続性と広い視野をもつ重要性を感じられました。日々目の前の課題に取り組むと共に、これらのどれかひとつでも身につけたいと感じています。

◎青木会長からの皆さんには会社にとって、人的資本であり、資本には運用が高められていきます。人間として個人を高め、磨きをかけると反射鏡となりそこから発せられた光がステークホルダーに働きかけて、その力が評価され企業に跳ね返り企業価値を高めていくことになるとお話を聞きました。

◎田村教授のご講義は基本的に「場」について客観的に考察して行動していませんでしたので大変参考になりました。今後は「場」と伝承について考えて行動したいと思います。

◎小売業の最前線に立れた杉先生のお話はとても新鮮なものでした。特にPOSデータに頼りすぎる経営の危険さの件は興味を引かれた。

◎須齊先生のご講義は、色々幅広くお話を頂き毎回楽しみにしていますが、今回は特に広範囲にわたる様々な業界の話を頂き、大変楽しい講義でした。携帯事業の海外戦略、後発生優位の話、後進国の同質化の話や先進国は技術革新により異質化を図ること。またプロジェクト活動の話ではリーダーの役割としてNavigatorネットワーク交渉力など様々な話を頂き参考になりました。

◎情熱、信念、知恵、コミュニケーション、チームワーク、オリジナル技術、市場分析、チャレンジ等、会社発展に必要な全てが網羅された講義内容がありました。

◎ウインタースクールを受講して、一番よかったですと感じたことは各セッションの講義も良かったのですが、コミュニケーションアワー以降の参加者が就寝するまでの間に自由に語り合う時間があったことです。

◎後藤先生は群馬県の出納長という要職にあられた方で、部下のモチベーションをアップさせるにはどうしたらよいのかなどという苦労なお話、またご自身のご苦労をされた近況もジョークを交えてお話をされて大変勉強になりました。

◎松島教授のご講話は過去の成功例を題材にされ具体的な内容であるからこそ強い刺激を覚えました。受講後事例企業の本を取り寄せ読んでみました。その位講義が面白かったといえば、失礼かもしれません、とても参考になりました。

◎エクササイズアワーでは青木会長のご指導のもと早朝よりエクササイズを行い気持ちの良い朝を向えられました。

◎今回のようなスクールでは始めての経験で各社の仲間達と交流が持てて非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。日頃感じない緊張感と新鮮さは気の充実につながりました。ありがとうございました。



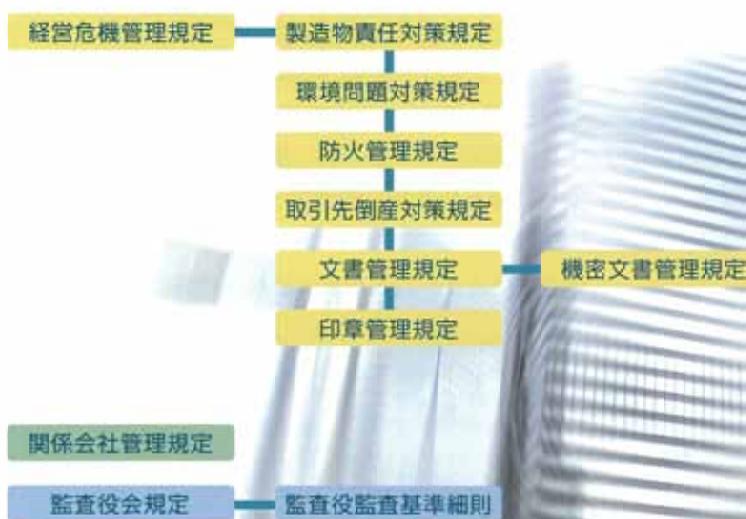
ハルナビビジネススクール 理事構成

校長 小出 信介(ハルナビバレッジ代表取締役社長)

理事長 青木 满志(グループ代表 CEO)
副理事長 菅谷 重信(ハルナビバレッジ経営監査評価役)
専務理事 小林 欣司(ハルナビバレッジ経営監査評価役)

Haruna Group 社員育成：自己啓発

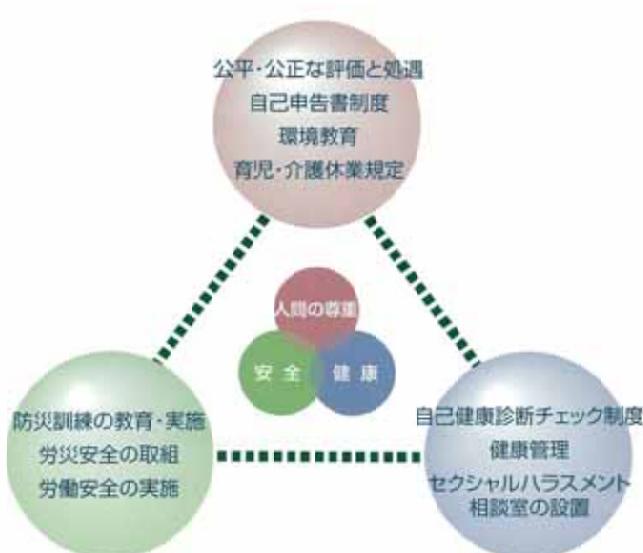
当社では、役員・社員へのコンプライアンスの徹底を図っております。



当社は社員一人ひとりの個性と意欲を尊重し、社員とともに成長していく企業をめざしています。

そのために公正で働きやすく、健康と安全に配慮した職場環境の整備に努めています。

また、社員の健康づくりや能力開発を支援するさまざまな施策を展開しています。



ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社
広報・秘書チーム室長
黒澤厚美

ハルナグループのコーポレートガバナンス基本方針である「価値ある企業」とは、信頼され続ける事から始まると言は考えています。法令遵守だけではなく、皆様からの信頼を得て、期待に応えられる企業価値の向上と経営品質の向上を目指しながら、社会的責任を果たしていきたいと望んでいます。現在では、コンプライアンスに係わる体制の構築に努力をしていますが、企業価値の創造の基盤には、働く社員の一人一人が、会社の理念や倫理に共感し、参画意識を持ち、会社と社員の間での信頼が、重要になると思います。そのためには、人権の尊重・安全で快適な職場づくり・社員は健全な心身を持つことは不可欠であり、その中で生まれる信頼や、社員の志しが、将来の大きな支えとなり「価値ある企業」として支持され続けていくと考えています。

Employee Stocks Society/Employee Stock Options

■従業員持株会

当社では、社員の経営参画意識を高め、また社員の将来的な財産形成にも寄与するとの理念から、1997年より従業員持株会制度を導入しています。経営に参画する役職員が、自社株式を保有し、自社の企業価値を高めることにより高い意識を有することにより、当社の企業価値の向上と株主の皆様全体の利益の向上が達成されることを目的としています。

持株会に参加している役職員は、毎月の給与から一定額を天引きにより積み立て、その積立額に応じて当社が奨励金を給付しています。

持株会の会員は設立当初より増加傾向をたどり、現在では、会員数が67名となり、役職員全体の46.2%となります。

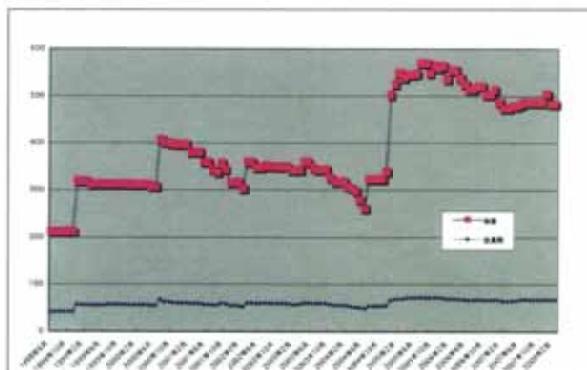
■ストックオプション

当社では、従業員持株会と同様の趣旨から、ストックオプション制度を導入しています。ストックオプションについても、役職員の経営参画意識を高めていくという視点から、経営トップから現場の責任者まで、幅広く付与することとしました。

現場の責任者まで付与することにより、より積極的に自社の企業価値を高めることについて、自ら考え、実行することを期待しています。

ストックオプションは、第12期定時株主総会で導入され、付与者は96名、役職員全体の66.2%となります。

従業員持株会会員数と株数の推移 1998年6月～2008年2月



社員からの意見

愛社精神、モチベーションが高まりました。会社のために努力し業績を上げれば、自分の持っている自社株が上がっていくので、必然的に自分の財産も増えしていくことになります。会社のために努力するということは愛社精神につながります。

経営参画意識が高まってきた

現在、当社は2010年の株式上場に向け、
役員・社員一丸となり、
とりくみを行っております。

